

読むと出水のまちが♡好き♡になる

で みず がっ く

出水学区ニュース

上京区社協が発行する、コロナ禍における
学区内の動きをお伝えするニュースです。

No.2



Feb.2021



出水学区のまちづくり活動について 教えて、会長さん！

今回は、出水住民福祉連合協議会 山本 安一 会長に、コロナ禍中・コロナ禍後のまちづくり活動について、
上京区社協職員がお話を伺いました。



何より、子どもたちと大人たちがたびたび顔を合わせて「顔の見える関係」になると、お互い安心して暮らし続けられる。

最近は、なかなか地域役員の成り手もない。これからの出水学区をどんなまちにしていけるのか、みんなで議論していくことが必要だろう。

みんなの関心が高い防災をてこにして、学区内のむすびつきを深められないだろうか。

出水学区内には三つの公園があり、区内でも非常に恵まれた環境。このうち、二条公園はかつて二条児童公園と呼ばれていたが、リニューアル時に「児童」の文字を消した。これからは「児童」だけでも「高齢」だけでもない、「多世代」の時代だ。

学区の誰かが旗を振る。「楽しいことしよう」「困っているよ、手を貸して」。すると、別の誰かが寄ってくる。「みんなで考えるよ」。

…そういう学区になるといい。「しんどい」「やらなあかん」ではなく、日常の普段づきあいの中で「楽しく」「お互いさま」で支え合える出水学区に。

これからも自転車で出水学区内を走って、みんなに声をかけて行きたいね。

◎コロナ禍中のまちづくり活動について

コロナ禍になって、まず意識したのは**防災のこと**。出水学区では、これまで防災まちづくりを積み重ねてきた。避難場所や集合場所、道の状況をまとめた「防災まちづくりマップ」や、防災の目標と基本方針を定めた「防災まちづくり計画」を住民参加型で作成した。そうすることで、防災が「他人ごと」ではなく「自分ごと」になった。

今後は、**密にならない避難方法をみんなで考えたい**。寺院を活用するなど、いろんなと

ころのお力添えをいただきながら取り組んでいきたいね。

コロナ禍の中で、オンラインを活用した新しい取り組みも始まっているようだが、やはり**顔と顔を合わせることで伝わる空気がある**。今後、**そうした取り組みを重点的にやりたい**。コロナ禍の中でも工夫してやったらいい。

◎コロナ禍後のまちづくり活動について

自転車で出水学区内を走っていると、家の外でぼんやりしている子どもに目がとまることもある。「ど

うした？」と声をかけると、「家に入っても誰もいないから…」と返ってくる。最近そうしたことが多く、とても気になっているね。

出水学区では、コロナ禍でも子どもの通学見守りを毎日登校・下校時に行った。また、小学生の消防隊も結成している。二条城北小学校 学校運営協議会の伝統産業部会では、子どもたち向けにくみひもづくりやおまんじゅうづくりを行っている。こうしたまちづくり活動を通して、子どもたちに学区への愛着がわくといい。親世代も巻き込むことが出来る。



コロナ禍前に行われていたまちづくり活動の様子。



出水学区では、3密や衛生面に気を配りながらまちづくり活動が行われています。

まちづくり活動の内容は、コロナ禍の状況により変更となる可能性があります。
最新の活動は、上京区社協
(Tel:432-9535) までお問い合わせください。
＼ 反対側の面も、ぜひご覧ください！ /